

(臨床研究に関するお知らせ)

和歌山県立医科大学附属病院泌尿器科に、泌尿器科腫瘍を手術された 患者さんまたはご家族の方へ

和歌山県立医科大学泌尿器科講座では、以下の臨床研究を実施しています。ここにご説明するのは、過去の診療情報や検査データ等を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」という臨床研究で、本学倫理審査委員会の承認を得て行うものです。すでに存在する情報を利用して頂く研究ですので、対象となる患者さんに新たな検査や費用のご負担をお願いするものではありません。また、対象となる方が特定できないよう、個人情報の保護には十分な注意を払います。

この研究の対象に該当すると思われた方で、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

泌尿器科悪性腫瘍における代謝産物の網羅的解析

2. 研究責任者

和歌山県立医科大学泌尿器科講座 教授 原 勲

3. 研究の目的

腎癌などの泌尿器科悪性腫瘍は近年の治療手段の向上により予後は以前と比べ著しく改善されています。しかしながら、同じ癌でありながら、救命できる患者と不幸な転帰をとる患者が存在します。癌の特徴の1つに代謝の変化があり、それらの変化が癌の予後と深く関わっている可能性があります。近年、多くの微量な代謝産物が網羅的に解析できるようになってきており、代謝産物の中に予後と関連がある物質が見つかる可能性があります。本研究では、「泌尿器科悪性腫瘍における予後予測因子物質の解明」研究において、予後との関連を明らかにするために、手術時に得られた保存検体を用いて、網羅的に代謝産物を調べ、予後と関連する物質を同定することを目的としています。本研究によって、泌尿器科腫瘍における予後予測可能な代謝産物が同定できれば、予後予測が可能となり、新たな治療戦略を構築することができ、また、その予後予測可能な代謝産物からその代謝経路に関わる分子を制御する阻害薬を開発することにより新たな治療薬の開発が可能となります。

4. 研究の概要

(1) 対象となる患者さん

泌尿器科の悪性腫瘍に対し2007年7月から以降に手術を受け、「泌尿器科悪性腫瘍における予後予測因子物質の解明」研究に同意された方。

(2) 利用させて頂く試料と情報

この研究で利用させて頂くに試料は、過去に手術で切除され、当院泌尿器科で保存されている手術検体の一部です。情報としては、臨床病理・組織型・予後などの臨床情報と「泌尿器科悪性腫瘍における予後予測因子物質の解明」研究で得られた研究に関する情報です。

(3) 方法

保存されている手術検体の一部を共同研究機関である大阪大学大学院薬学研究科 細胞生理学分野に送付し、予後と関連がある代謝産物を網羅的に測定します。それらの中から、予後と関係のありそうな物質を同定し、和歌山県立医科大学泌尿器科および分子遺伝学講座で、それらの物質と予後および遺伝子発現との関連を比較検討します。

5. 個人情報の取扱い

利用する情報からは、患者さんを特定できる個人情報には削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されることがありますが、その際も患者さんの個人情報が公表されることはありません。

6. ご自身の情報が利用されることを望まない場合

臨床研究は医学の進歩に欠かせない学術活動ですが、患者さんには、ご自身の診療情報等が利用されることを望まない場合、これを拒否する権利があります。その場合は、下記までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。なお、研究協力を拒否された場合でも、診療上の不利益を被ることは一切ありません。

7. 資金源及び利益相反等について

資金源

日本医療研究開発機構 創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業
日本学術振興会 科学研究費

本臨床研究に関わる研究者には開示すべき利益相反はありません。この医学研究は、本大学に設置された利益相反委員会等の審査及び承認を受けて行います。

8. 問い合わせ先

和歌山市紀三井寺 811-1

和歌山県立医科大学泌尿器科講座 教授 原 勲

TEL : 073-441-0637 FAX : 073-444-8085

E-mail : hara@wakayama-med. ac. jp